

みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 94
東北森林管理局



朝日を浴びる八甲田山

contents

「年頭所感」

—— 特集 |

「NPOと協働したブナ林再生への取組」

—— 美しい森林づくり | 下北森林管理署

「白糸の滝」

—— 我が署の名所 | 岩手南部森林管理署



2011・国際森林年

震災の復興と再生プランの推進に向けて

東北森林管理局長 矢部三雄



が重要な年となります。

国有林野事業におきましても、津波で被害を受けた海岸防災林の本復旧、復興用材の安定的供給、被災庁舎の再建、国有林野の除染作業などに組織一丸となって取り組んでいくこととしています。引き続き皆様方の御理解をお願いいたします。

新たな年の幕開けに当たりご挨拶を申し上げます。

皆様には、常日頃から東北森林管理局の業務運営につきまして格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、昨年三月十一日に発生しました東日本大震災に際しましては、様々なご支援をいただきありがとうございました。東北森林管理局でも食糧、薪ストーブなどの支援物資提供や仮設住宅用杭丸太原木の供給など被災地支援に精力的に取り組んだところであります。現在、被災地におきましては、瓦礫の処理などが着々と進められています。本格的な復興に向けたインフラの整備、市街地の再興など、今年

町村森林整備計画策定のお手伝いをする体制も整備されましたので、その活躍も期待されます。

さらに、民有林と国有林とが連携し、共用できる路網整備や一体的施業の確保により効率的な作業システムを目指す共同施業団地も積極的に設定していくこととしています。既に、青森県内で実施した「儲かる間伐事業」での経験は、これら共同施業団地の有効な事業展開に役立つものと期待しています。

こうした森林・林業再生プランの推進は、木材の安定供給や地域雇用の確保など被災地の復興にも大いに貢献することになります。民有林と国有林とが連携して着実に実施していくことが大切です。

東北森林管理局は、一六五万ヘクタールの広大な国有林を抱え、その資源量に裏打ちされた素材生産量も全森林管理局中トップを占めています。こうした生産量を活かし、東北地方の森林・林業再生プランの進展と木材産業の効率化、地域材自給率の向上に戦略

的に挑戦していくこととしています。

また、今年の春先には国有林野事業の一般会計化のための法案が国会に提出される運びとなっています。東北の国有林には、白神山地などの原生的な森林や奥羽山脈緑の回廊などの生物多様性上も重要な森林、広範な水源林がありますので、これまで以上に国民の財産である国有林の管理運営を充実し、その多面的機能を高度に発揮させていくことが重要です。そして、国民の皆様から「役に立つ国有林」と評価いただけるよう努力していきます。

こうした国有林であるためには、職員一人一人の技術力、とりわけ森林を見る力を高め、森林経営のプロフェッショナルとして国民に奉仕していかねばなりません。今年もそうした基本的な取組を二層強力に進めて行きます。最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。伸びやかに成長する年のスタートに当たってのご挨拶とさせていただきます。



みどりの東北



新年ご挨拶

東北森林管理局青森事務所長 井上達也



新年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、国有林野事業の運営にあたり、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。さらに、昨年三月に発生した、東日本大震災に際しましても、ご支援、励ましをいただきありがとうございます。発生から十ヶ月弱が経ち、月日の流れの速さを思う一方で、被災地の状況から、あらためて、地震・津波被害の凄まじさを感じています。

東北森林管理局では、発生直後から、局署のネットワークによる、被災状況の把握・情報収集、救援物資の収集・運搬、国有林の特

徴を活かした、仮設住宅用の杭丸太用材の供給、被災した防潮堤、海岸松林の調査、仮復旧、瓦礫仮置き場として国有林の無償貸付、漁業用養殖筏用材の生産・供給など、被災地支援に取り組んできたところです。また、地域経済に配慮して、被災署等の事務機能の迅速な復旧、事業の早期発注を実施しました。さらに、三陸沿岸の木材加工施設等の被災・復旧状況、素材価格の動向を勘案し、約六万㎡の素材生産を削減するとともに、素材の広域流通を進めるなど、木材需給への機動的な対応にも努めてきたところです。今後、本格化する海岸防災林等の復旧工事、復興用木材の安定供給等に、万全の体制で取り組んでいくことといたします。

給施設の整備、瓦礫の無害化再生骨材を活用した海岸防災林の復旧・再生などの新たな取り組みが計画されており、これらに当たっても、国有林の組織、技術力、森林資源を活用して推進していきます。

今年は、国有林野事業の一般会計の動きも本格化します。「国民の森林としての国有林」をより意識するとともに、地域の森林・林業をリードする役割を果たすよう努力していきます。

森林・林業再生プラン実施元年であった昨年、新たな森林計画制度に基づく、国、都道府県、市町村レベルの森林計画等の改訂整備も進み、準フォレストラー研修等による人材育成、共同施業団地の設定など着実な進展を見ました。

プランの基本理念は、森林・林業を地域資源創造産業に導き、低炭素循環型社会の形成を目指すものであり、震災の復興における取り組みと大きく重なるものがあります。民有林との連携、施業集約、効率的な林業作業、木材の大量かつ安定的な供給、新たな木材需要の開発、雇用創出など、森林・林業再生プランをさらに推進し、震災復興へ貢献していきます。

未曾有の大震災に対して、今、我々の意思と力、そして新たな取り組みが求められています。これらにしっかりと取り組み、「元氣な日本」「元氣な東北」ひいては「元氣な日本」の復活となるよう職員一丸となって取り組んでまいりたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

震災の復興再生では、東北地域の豊かな森林資源を活用して、木造による住宅や公共建築物の建設推進、木質バイオマスを活用した熱電併

皆様にとつて、本年がより良き年でありますことを祈念申し上げます。頭のご挨拶とします。

井上達也

良いタネ、良い苗による低コスト造林への取組

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

板鼻 直英 玉城 聡

東北地方は、スギ材の全国の4分の1を生産している一大供給地ですが、立木の販売収入約100万円/haに対して、再造林した場合地拵え、植え付け、間伐などの経費は約190万円を要しています。このため、伐採したまま、その後は自然にまかせている箇所が60%~80%あるとされています。このような箇所が増えることは、森林の持つ木材生産機能や公益的機能の低下を招く大きな問題です。



写真-1 9年生で樹高9mのスギ

一方、品種によって植栽後の成長が大きく違い、成長の早いものでは9年生で8mに達するものもあります(写真-1)。また、近年、軽量で植栽工程が高く、用土と一体化しているため活着率が高いなどの長所を有するコンテナ苗が注目され、東北地方においても国有林を中心に各地で植栽されるようになってきました。

東北育種場では、低コスト造林を目指して、宮城県農林種苗農業組合と共同で初期成長優良品種とコンテナ育苗を組み合わせた短期育苗技術の開発に、また、ノースジャパン素材流通協同組合と共同で伐採・造林の連続実施試験に取り組んでいます。

短期育苗技術の開発では、初期成長の優れた精英樹の種子や次代検定林から選抜した個体間の人工交配種子をコンテナに直播きし、育苗しています。平成22年3月に播種した苗木では、その年の12月には苗高約30cmの苗が得られました。また、平成23年1月播種では、11月には成長の良い系統の苗高は平均26cm、最大33cmに達しています(図-1)。残念な

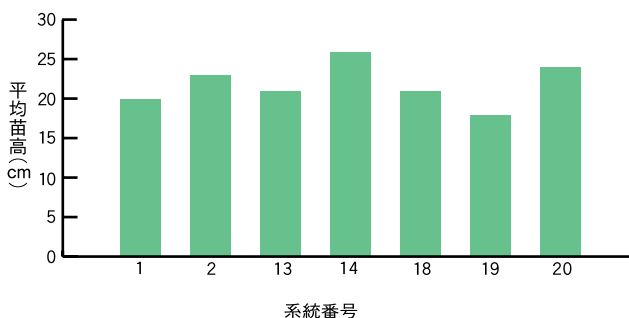


図-1 スギコンテナ苗の苗高(H23.1播種、H23.11調査)

ことに、今般の津波により大半の苗木が被災しましたが、被災を免れた苗木により岩手北部森林管理署管内に、小規模ですが短期育苗コンテナ苗の植栽試験地を設定することができ、生育状況を調査しています。

伐採・造林連続実施の試験地は、岩手県遠野市にあります。伐採後直ぐに植栽することで、他の植物の成長が緩慢なうちに植栽木が成長できるので、下刈り回数を減らすことが可能と考えられます。ここでは、伐採・搬出・地拵えを同時並行的に実施した後、平成21年4月に初期成長の優れたスギの4年生普通苗を植栽しました。平成21年を1年目として毎年秋に樹高を調査しています。下刈りは、2年目の夏に1回を実施しています。2年目には、平均樹高は130cmに達し、75%の植栽木が植生高を超えたので、翌年の下刈りは行いませんでした。3年目には植栽木の90%以上が植生高を超え、樹高は平均170cm、最も高いものは樹高約3mに成長していました(図-2)。このまま下刈りをしないで植栽木が良好な成長を続けられれば、下刈り回数は1回となり、従来の5~6回に比べて大幅に育林コストを削減することができます。

東北育種場では、次代検定林等から成長、幹の通直性や材質に優れた次世代精英樹の候補木を選出し、その候補木からさらに次世代の精英樹(エリートツリー)を選抜することを計画しています。エリートツリーの種子、コンテナ育苗及び伐採・造林の連続実施を組み合わせることによって、下刈り回数を現状の6回から2回程度に省略できると期待されます。また、植栽密度を低くすると、植え付け経費は植栽密度に応じて縮減します。育種、育苗及び施業の3者の相乗効果の発揮を目標に、関係機関と連携して技術開発を進めていきます。

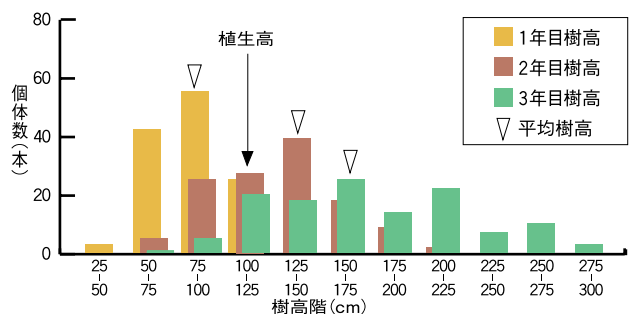


図-2 伐採・造林連続実施試験地におけるスギの成長経過



NPOと協働したブナ林 再生への取組

——— 下北森林管理署



職員による三基ヒバ支柱の設置方法の説明

10月25日(火)、むつ市葉色山国有林において、採草放牧跡地の笹生い地を森林へ再生する試みとして、NPO法人森林・環境サポート大畑、むつ市大畑町林業振興対策協議会、むつみらいライオンズクラブ及びフォレストボランティアと当署との協働による「佐藤ヶ平ブナ林再生に向けた取組」を36名の参加を得て行いました。



参加者による作業の様子

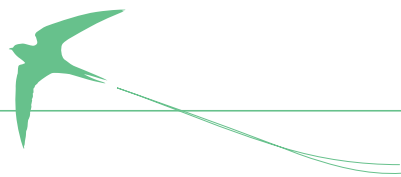
この取組を行う約21haの採草放牧跡地は、平成12～13年にブナを植栽のうえ返地を受けたもので、植栽木は生育しているものの、雪折れや野兎による被害を受けるなど再生への手助けが必要な状況となっていました。このため、平成19年度から再生の取組を始め、これまで、採草放牧跡地のうち約1.45haについて、ブナの植栽、実生更新を期待したレイキ掻き起こし、幼齢木ネットや三基ヒバ支柱の設置による植栽木の保護など各種の方法により、NPOを含む地元の方々と連携した協働作業を行ってきたところです。



作業終了後に記念撮影

なものは野兎等の食害防止のため樹高木ネットを巻き付け保護、一方で樹高の高いものについては三基ヒバ支柱で支えるといった作業を行い、平成20年度に幼齢木ネットを設置した既取組区域のうち、枝葉の生育が良好で込みすぎている0.55haの区域ではネットを撤去する作業を実施しました。

当日はあいにく雨の中でカッパを着用しての作業となりましたが、このブナ林の再生が地元大畑流域の豊かな水資源の一助となることを願って、参加者全員が額に汗して一生懸命、作業に取り組んでいました。



仮設住宅へX'masプレゼント

三陸北部森林管理署



11月25日(金)、緑の国のサンタクロースとして、高野署長と河田上席森林官が山田町民グラウンドの仮設住宅を訪れ、沼崎山田町長にX'masツリーを贈呈しました。贈呈式終了後は、仮設住宅に入居されている方々も一緒に復興を祈りながら飾り付けを行いました。

X'masツリーは、枝の張った除伐木を人力により運び出し、台座は風倒木を30cm程度に輪切りし中央にドリルで穴を開けて制作しました。山田町には49箇所の仮設団地があり、そのうち、集会所(談話室)のある27団地に贈呈式明けの11月28日と29



沼崎山田町長(右)へ、トマツのミニチュアツリーを手渡す高野署長



各地からの 便り

月が経ち、復興の兆しが感じられるようになりました。しかし、未だ避難生活で不自由な生活を余儀なくされている多くの方々がいるのが現実です。このX'masツリーで仮設団地に入居している方々が少しでも心の安らぎと明日への希望を持って頂ければと切に願います。

山形大学農学部と 連携協定締結

指導普及課

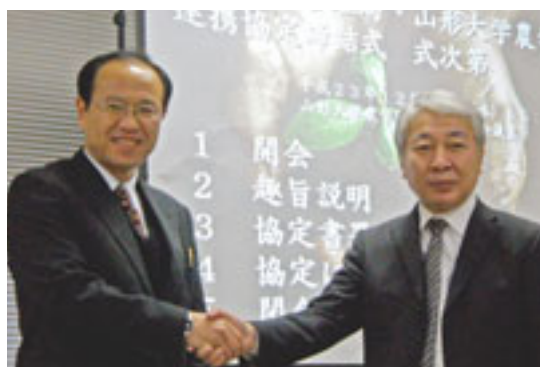


山形大学農学部と東北森林管理局は、相互の連携と協力のもとで、森林・林業の再生、地域振興の推進及

日の両日でX'masツリーをお届けしました。
三陸沿岸地域に甚大な被害を及ぼした東日本大震災から、早や9カ



職員手作りのX'masツリー



連携協定を締結し握手する西澤隆山形大学農学部長と矢部三雄東北森林管理局長

び生物多様性の保全をはじめとする森林の有する多面的機能の持続的發揮等に貢献できるような調査研究及び人材の育成等の促進を図ることを目的として、連携協定を締結しました。協定締結式は、平成23年12月21日15時30分から山形大学農学部2階会議室(鶴岡市)で行われ、西澤隆山形大学農学部長、矢部三雄東北森林管理局長が協定書に署名しました。その後の意見交換会では、西澤学部長が「森林文化都市を掲げる鶴岡にとっても大変有意義なことだ、矢部局長が「森林と林業の再生に向けて互いに手を取り合って進めたい」と述べたほか、関係者間で活発に意見交換が行われました。

協定締結式の後、同大301講義



みどりの東北

キブナハムシの被害程度と開花頻度の関係」、山形大学農学部菊池俊一准教授が「連携から見えてくる東北の森林の明日」と題して講演しました。



関係者で記念撮影

室において協定に基づく活動として公開講座を開催し、林業士の加藤周二氏が「国有林と山形大学農学部に期待すること」、山形森林管理署崎野健輔署長が「魅力いっぱい・山形の国有林!」、大学院農学研究科1年清野陽介氏が「ブナに対するウエツ

ミニコラム

「へえ〜、そうなんだ!」 完熟はいつ頃?

岩手北部森林管理署 技術専門官

松尾 亨

Tooru Matsuo

実りの秋とは言うものの、木の実の完熟期って? … 冬の凍れを待って酸味や渋みが、甘さに変わる木の実は、オナガやシジュウカラは食べ頃を見極めて冬越しの食料とします。今回はこれらの樹木の実をクイズ形式で学んでみましょう。

秋のうちから甘いタイプもありますが、時間とともに渋く・甘く・芳しくと変化する木の実が動物や野鳥に、食べてもらうための工夫です。甘さや渋さは、時として人にも求められる要素ですが、人間としての熟し頃って?…では、里山や高原にある6種類の樹木とつづのクイズに挑戦してみましょう。



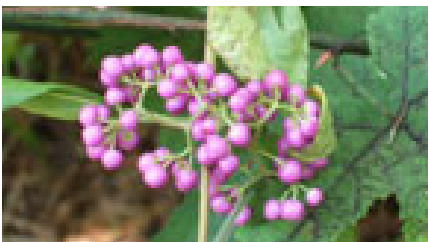
①牧草地や高原で見られ花は白く、葉が3裂することでエゾノコリンゴと区別します。



②変形した果柄が名の由来。果柄が厚く膨らみ、食べると甘く岩手の方言で「アマガゼ・アマザキ」



③ぱっくり開いた形がヒント、甘くてヤマネやモモンガも食べにきます。葉は3枚。



④初夏に薄紫の花を上向きにつけ葉は対生、方言で「ハシギ」。源氏物語がヒント。



⑤ニシキギの仲間ですがコルク質の翼はつかない。2個の実と蒴果が美しい。



⑥方言で「ジョウミ・ジュミ」と呼ばれ、熟すと甘酸っぱい。焼酎に漬けると赤く美しい果実酒となり利尿効果有り。

◆ 答え ①ズミ(バラ科) ②ケンボナシ(クロウメドキ) ③ミツバアケビ(アケビ科) ④ムラサキシキブ(クマツヅラ科) ⑤コマユミ(ニシキギ科) ⑥ガズミ(スイカズラ科)

国有林モニターを体験して

山形県鶴岡市

桑原 理早

Risa Kuwahara



国有林モニターに応募したきっかけは先輩からのお誘いでした。また、大学では林業を学んでいるので、机上だけでなく、実際に行動し、自分の目で確かめようと思い、様々な活動に参加させていただきました。

私は調査等で山や海岸林へ行くことが多いのですが、モニター研修会で行った場所は関係者以外立ち入り禁止の場所であったり、管理局の許可がなければ入ることができないような場所でした。そこでは自然災害によって崩壊した法面に草の種の吹付け工事を行ったり、大きく崩壊してしまった斜面にコンクリート枠を設ける工事などが行われていました。これらは、本来あるべき自然を元通りにすることを目的としています。大規模な工事が何年にもわたって行われ、少しずつ元に戻りつつある様子は、今の地球環境の縮図を見ているようでした。

地球温暖化や大気汚染など、今私たちが直面している問題は多くあります。これを工事にあてはめてみましょう。土を運ぶ車、石を寄せるパワーショベル、設計図を書く人…まだまだ役割はたくさんありますが、これらのどこが地球環境と結び付くのか。それは、「ひとつの目標に向かってそれぞれが得意なことを役割分担する」という点です。

環境問題は世界的に問題となっていますが、それぞれの方向性が統一されていないために、いまいち効果を発揮できていません。その中で私たちは何ができるのか。やはり、森林や自然についてもっと知ることはないでしょうか。話題としては知っているものの、なぜこうなるのかということまで理解していない人がまだ大勢いるのではないのでしょうか。例えば、よく耳にするのが、「木を切るのは環境破壊だ」ということ。確かに、行き過ぎた伐採は環境破壊になりますが、適度に大きく育てて伐採し、新しい木を植えるというサイクルがCO²の吸収・固定に有効なのです。樹木は呼吸しますが、光合成によって大気中のCO²を固定します。化石燃料と違って、樹木は燃やしても固定したCO²を再び大気中に放出するだけなので、CO²の排出量は実質プラスマイナス0ということになります。樹木はピークが過ぎると成長量が落ちていくので、いつまでも大きく育てればいいということではありません。また、山を手入れすることで動物との棲み分けがはっきりし、動物被害は軽減するといわれています。適度な伐採が日本の山を救うのです。

以上、モニターでの体験と森林の炭素固定について記述しましたが、モニターに参加することで自分の経験を織り交ぜながらたくさん勉強させていただくことができました。これからも森林について興味を持ったことを深め、周囲の方々と森林について考えていきたいと思っています。

平成24年度国有林モニターを募集しています

東北森林管理局では、国有林の役割や現状をご理解していただき、国有林の管理・経営に国民の皆様の声を役立てていくため、東北森林管理局の管轄地域である青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県に在住の方の中から「国有林モニター」を募集しています。

募集人数 | 数十名程度

任期 | 2年間(平成24年4月～平成26年3月)

内容 | アンケートへの回答、現地見学会・国有林モニター会議への出席

募集期間 | 平成24年1月4日(水)から1月31日(火) [当日消印有効]

その他 | 応募資格、応募方法など、詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ | 東北森林管理局 国有林モニター係

tel.018-836-2274 fax.018-836-2031

HPアドレス http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/kokuminsanka/monitor/h23_monitor_bosyuu.html

人々の温かさに触れて

津軽森林管理署金木支署今泉森林事務所

平野陽子

Yoko Hirano

私の勤務している今泉森林事務所は、青森県の津軽半島の中央部、津軽山地の西側に位置している、中泊町(中里地域)の北にあります。

この中里地域は林業と農業の町であり、総面積の約60%が山林でそのうち約88%が国有林です。昔は青森市から旧金木町(今の五所川原市)までを森林鉄道が走り、林業の発展と共に町もずいぶん栄えたそうです。そのためか林業で生計を立てていた方が多くいらっしゃいます。また、現在でも多くの家々で薪を使っており薪炭共用林組合が存在します。

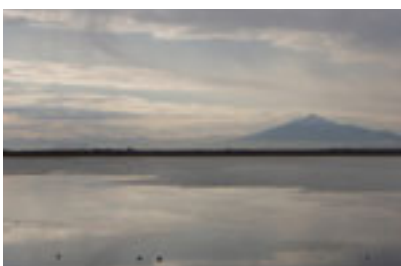
この地域の針葉樹林を中心とした山林では、スギのほか、青森県の木である青森ヒバ(ヒノキアスナロ)も生育しています。青森ヒバは、天然秋田杉、木曽ヒノキとともに日本三大美林の一つにあげられて



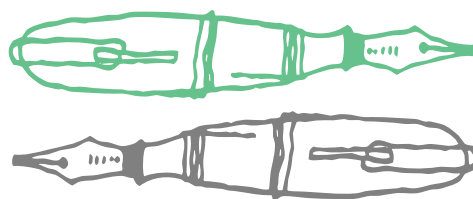
青森ヒバ林

おり、腐りにくい性質やシロアリを寄せ付けない防虫効果も高いことなどから、古来より神社仏閣等の重要文化財にも使用されてきました。また、ヒバの持つ香りには精神安定効果もあるそうです。その青森ヒバも年々その数が減少してきており、貴重な財産を後生まで残すために様々な取り組みが行われています。

さらに、森林事務所の近くには十三湖という湖があります。十三湖は、周囲が約30kmと青森県で3番目に大きな湖であり、海水と淡水が混じる汽水湖で、ヤマトシジミの生息していることで有名です。しかし、近年その数は減少し、現在では漁獲量の制限や禁漁区や禁漁期間を決めるなどして資源保全に努めています。また、この十三湖には冬になると白鳥など多くの渡り鳥が飛来してきます。



海かと思うほど広い十三湖



森林官からの手紙

国道339号線沿いのドライブインではこのシジミを使ったしじみラーメンが食べられますので、バードウォッチングも兼ねて一度おいでになりませんか。

ところで、津軽地方では「雪が下から降ってくる」と言われるように、冬になると、強い北西の季節風と一緒に地吹雪が発生し、人々の交通や生活に大きな影響を与えています。地吹雪が起こると白い画用紙を貼ったようにすぐ近く見ええないほどだと言います。

この地吹雪を少しでも和らげ視界をよくするためにあちこちで防雪柵を見かけます。防雪柵があるところと無いところでは道路の状況が全然違うのを感じ、防雪柵の有り難みを実感しています。11月頃から防雪柵の取り付けが始まりますが、この景色を見ると冬が近づいてきたんだと感じます。



お土産・お食事処

さて、5月に赴任してきてからもう9ヶ月が過ぎようとしています。初めての土地、初めての仕事、初めての現場であつという間に月日が流れました。職場の方々や地域の皆さんに支えられながら何とか日々の業務をこなしてこれたかなと思います。

地域の方々が、なにもわからない私を「主任さん、主任さん」と声をかけて下さり、温かく迎えて頂いたことに深く感謝しております。

森林官として未熟な点が多々あり、反省の日々ですが、より近くで地域の方々と接することの出来る今の仕事は、何物にも代え難い貴重な経験と勉強が出来る良い機会であると感じています。

これからも地域の声に耳を傾け、つながりを大切にしながら地域に根ざした森林官になれるよう日々努力していきたいと思ひます。



冬になくならない防雪柵

岩手南部森林管理署

〒023-0853 岩手県奥州市水沢区東上野町12-17

tel.050-3160-5920 fax.0197-25-6942

【我が署の名所⑩】
岩手県和賀群西和賀町
——「白糸の滝」

「白糸の滝」



秋

田県と接する西和賀町の女神山（956m）の麓では、青空を背に滴るよう
に流れる「白糸の滝」と色づいた木々の葉の
コントラストが美しく映える箇所があります。「下
前風景林」に設定されており、大小たくさん
の滝が連なっています。

同山の麓には「姥滝」「降る滝」など七つの
滝が知られており、愛好者に人気となってお
りますが、その中の一つ白糸の滝は町役場湯
田庁舎から車と徒歩で1時間ほどの距離に

あり、糸のように滴り清涼感を漂わせる幾筋
もの「水の糸」と、春は新緑、秋は紅葉と絵は
がきのような風景が広がっており、名前のと
おり、白い絹の糸を垂らしたように落ちて華
麗な滝です。

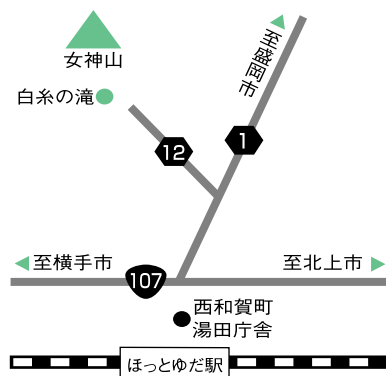
落差約30メートルの滝の下には、水しぶき
で小さな虹が時折見え隠れし、訪れたハイキ
ング客はしばし癒やしの時間を味わっています。
また近くには「三滝不動明神」が祀られて
います。



新緑まぶしい春の白糸の滝



滝の白と紅葉の、美しいコントラスト



●交通アクセス
西和賀町役場湯田庁舎から車で約40分、
そこから徒歩で約20分。

●東北森林管理局のホームページをご覧ください

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

みどりの東北 第94号 | 発行月●平成24年1月

発行●東北森林管理局 秋田市中通5丁目9-16 tel.018-836-2192

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。